



医療法人 康仁会

西の京病院

vol.89

メディカル 最前線



最前線医療を行く

心臓・下肢動脈センター (循環器内科)

足梗塞！悪化させると深刻な事態に。カテーテル専門医とチーム医療でサポート

日本人の死亡原因第2位の虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞など）は、血管の動脈硬化が原因だが、梗塞は心臓だけでなく下肢動脈にも起こりうる病気だ。心疾患同様、生活習慣病が引き金となることが多く、その予防への警鐘とともに、カテーテル治療の最先端を行く西の京病院の心臓・下肢動脈センター長・名方剛医師に話を伺った。



センター長 名方 剛 医師 NAKATA TSUYOSHI

先生の健康法

生活習慣病の予防には有酸素運動が一番です。ラジオ体操など、続けやすいエクササイズで筋肉づくりと代謝の促進を。ちなみに私はYouTubeで筋トレするようにしています。

早期発見が生存率や予後改善・四肢温存に関わります。間欠性跛行を生じたら、老化かな？と軽く考えず、ABIやCT検査を受けましょう。全身の動脈硬化チェックができます。

その足の痛み・冷感・シビレ—足梗塞かも

脳梗塞・心筋梗塞に次ぐ第3の梗塞

足に脈打つしこりやしびれ、片足だけ極端に冷たい、休み休みでないと足が痛くて歩けない（間歇性跛行）や足指の治らない傷などの症状は、下肢閉塞性動脈硬化症（足梗塞）の疑いがあるという。

下肢閉塞性動脈硬化症は、脚の動脈の血流が悪くなり、進むと足指に潰瘍ができて壊死に至るだけでなく、全身の動脈硬化で亡くなる怖い病気だ。



足指の治らない傷は閉塞性動脈硬化症の疑い

「皆さん、頭や心臓の梗塞については留意されますが、足にはあまり注意を払われません。初期は症状にも気づきにくく、重症化して初めて専門医にかかるという方が多いです。閉塞性動脈硬化症は、重症化しなくても死亡率が高く、重症化すると進行がかなり予後も悪い病気です」と名方先生。

特に透析患者さんはなりやすく、当院の患者さんの症状には常に気を付けています!

Doctor's comment

検査

間歇性跛行は、脊椎管狭窄症の場合もあり、ABI検査（足関節/上腕血圧比）やSPP検査（皮膚灌流圧測定）、超音波検査などで診断。

急性の場合は迅速な対応が必至

苦痛が少ない低侵襲カテーテル治療

下肢動脈閉塞には慢性のものも急性のものがあり、突然の強い痛みやしびれ、足が青白く冷たくなった場合は、急性下肢動脈閉塞の疑いが大きく、発症後6〜8時間内に対応しないと命の危険にまで及ぶ（死亡率15〜20%）。同院では心臓・下肢動脈センターでカテーテル治療専門医が24時間体制で対応。正確な診断と迅速な治療で治療向上の実績を上げている。

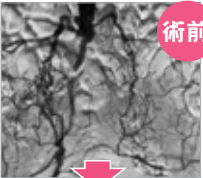
1 マルチスライスCTで検査

超高速撮影が可能な256列512スライスCTで、下肢動脈の形や走行、狭いところ、詰まっているところの有無やその程度を詳しく調べる。

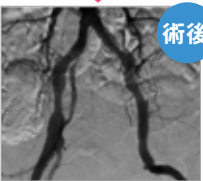
2 低侵襲カテーテル治療

脚を切開することなく（負担や痛みを軽減）、動脈の狭窄や閉塞を治すことができる手術法。細い検査用の管を脚の付け根や足首から挿入（局所麻酔下）、CTの画像を参考に透視モニターを見ながら診断し、必要に応じた治療をする。

カテーテルによる治療例 (下肢動脈)



術前



術後



危険因子は、生活習慣の乱れの中に!

塩分・糖質・脂肪分過多、喫煙、運動不足

下肢閉塞性動脈硬化症の原因は、加齢のほかに、生活習慣の乱れが大きい。生活習慣病（高血圧症・高脂血症・糖尿病・慢性腎不全）に喫煙・家族歴（遺伝）が影響し、その危険因子は、脂肪分や塩分、糖質の多い食生活、たばこ、運動不足だ。

危険因子

- ★高血圧……塩分・運動不足・喫煙
- ★高脂血症……コレステロール・中性脂肪（炭水化物・動物性脂肪）・喫煙・運動不足
- ★糖尿病……血糖値異常・運動不足
- ★慢性腎臓病……塩分・運動不足・喫煙

※たばこに含まれるニコチンや酸化炭素は、血管内の細胞を傷つけ、血液の粘度を高めて血流を悪くする。運動不足で筋肉量が減ると、新陳代謝が悪くなって内臓脂肪が付き、血液循環も不良になる。

熟練専門医が診察から治療・フォローまで—フットケアチームで足の健康をサポート—



熟練した専門医が、周囲の医療スタッフと共に、診察から治療、リハビリまで総合的に診る医療環境が当院の強みです。

フットケアチーム

医師・看護師・理学療法士・管理栄養士・臨床工学技士・透析スタッフ

